

別記様式（第5条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度 第2回福津市環境基本計画策定委員会		
開催日時	令和7年10月27日(月) 午前10時00分～		
開催場所	福津市役所別館1階大ホールE		
委員名	出席委員 鈴木 慎也会長・豊貞 佳奈子副会長 栗田 喜久委員・早渕 百合子委員・村上 浩一委員 藤井 美智子委員・濱 由希子委員・有田 八郎委員・長濱 幸一委員・大庭 也寸志委員		
所管課職員氏名	市民共働部長 香田 知樹 うみがめ課長 占部 賢 環境づくり係長 坂本 剛章 環境づくり係 松本 拓也		
会議	議題 (内容)	報告議案 福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定	
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	
	非公開の理由	-	
	傍聴者の数	0名	
	資料の名称	• 次第 • 福津市地球温暖化対策実行計画区域施策編（案） • 区域施策編策定の今後のスケジュール	
会議録の作成方針		録音テープを使用した要点記録	
		記録内容の確認方法 副会長による署名・押印	
		署名	印
その他の必要事項		栗田 喜久委員が途中退席。	

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

○あいさつ

○人事異動に伴う担当の紹介

○資料確認

○市民共働部長挨拶

○会議録確認

鈴木会長 福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第9条第2項の規定により、会議録確認を豊貞副会長に依頼。

○委員会成立宣言

鈴木会長 委員10名のうち10名出席。福津市環境基本条例第22条第2項の規定により、本日の委員会が成立。

○会議公開の了承確認

傍聴0名

○審議

事務局

議題について説明

福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について前回審議会からの主な変更箇所を説明

鈴木会長

質問やご意見はあるか。

有田委員

第2章の計画の基本的事項について、福津市まちづくり計画の「個別分野の計画」の部分に2025年4月に策定した『福津市森林整備計画』を明記してはどうか。二酸化炭素の排出削減のみならず、二酸化炭素の吸収も観点に含めるとよりよいと考える。

事務局

記載を検討する。

藤井委員

市内にメガソーラーはどのくらいあるか。災害対策や二酸化炭素の吸収の観点からも伐採については考える必要がある。

事務局

2か所把握しているが、今後拡大する話は聞いていない。

早渕委員	第5章の本市の二酸化炭素排出量の現状の、家庭及び運輸部門の二酸化炭素排出量の評価について、これらの部門の割合が高く、国の基準の世帯数や保有台数で計算すると市民の頑張りや市の取組が反映されないのではないか。アンケートの結果を見ても市民の環境に対する意識は高いので、国の基準の計算ではなく、福津市民の生活や暮らしに沿った計算基準を検討できないか。
事務局	県や政令市であれば統計データがあるが、基礎自治体ごとの統計データは値がないので計算ができない。本計画書内では、国の数値を基に計算している。評価時の基準としては、計画書のKPIにて評価を行う予定。
早渕委員	例えば、JCCAの「家庭からの二酸化炭素排出量」の用途別割合も電力消費統計から案分し作成しているが、自動車の項目でも東京都内と車社会の福津市では、割合に大きな開きがある。福津市に近い排出量と市民の頑張りが見える評価方法で考えては。
豊貞副会長	電力の排出係数と二酸化炭素排出量の関係について、電力の排出係数は、何の資料を基に用いているのか。環境省なのか、電力会社なのか、何を使うかによって値が変わってしまう。
事務局	九州電力の排出係数を利用している。その旨を資料に記載する。
鈴木会長	計画策定段階では国の計算基準を用いるとして、実際の評価の際には、他の自治体の例を参考に何か精度を高める具体的な案はないか。
事務局	他自治体においても国の統計データを用いて計算しており、人口30万人を下回る基礎自治体で個別の統計データをとることは難しい。KPIでの評価やアンケートを基に中間見直しで、有効な指標や対策に修正していくことを検討する。
鈴木会長	KPIのまちづくりの項目についても2030年度の目標水準がこれでよいのか、今回のやりとりを踏まえて最終確認を。あわせて進捗の管理をどうするかについては、例えば各車両の走行距離を調べるのは不可能。なので、電動車の導入という具体的な項目で進捗を管理し、そのうえで、評価の段階で協議、必要に応じて再検討を行えばよいのでは。
長濱委員	今のやり取りからも、第8章の目標達成に向けた施策の市民による取組チェックシートが重要となってくるが、項目が羅

<p>列されておりどれが重要視されているか不明瞭。併せて、第9章の気候変動への適応に向けてについて、市民による行動チェックシートの1つ目に植林活動への参加があるのは難易度が高く見えてしまう。重要視する項目や、取り組みやすい項目を上に配置して市民に取組を促す構成にしてはどうか。</p>	
事務局	構成を変更する。
濱委員	市民による行動チェックリストについて、どこで参加できるのか、どこに情報があるのか等、市民の行動を促せる具体的な情報を載せたらどうか。市民が行動を起こしやすくなると思う。
事務局	本計画での記載に限らず、市のHP・広報・SNS等の情報の提供は平行して行い、より具体的な情報への接触を市民に促していく。
栗田委員	郷育カレッジのカリキュラムとチェックリストの関連性をもたせてはどうか。現状では市民が行動するのを待つ受け身の状態だが、郷育カレッジに組み込めば参加する取組を積極的に周知でき、どちらの事業も認知度と参加率の向上に繋がるのではないか。
事務局	郷育カレッジと組み合わせるというのは良い提案と思う。
有田委員	植林活動というのは、個人での活動は難しく敷居が高く感じる。一人ひとりができる活動としては、植樹だとか花を植えるなど植物を植える・育てることで二酸化炭素を吸収させることではないか。別項目でもいいので個人個人が簡単に取り組めるように考えてはどうか。
事務局	意識啓発で考えると市民にとっても取り組みやすいと思われる所以検討したい。
鈴木会長	チェック項目を階層化させたり、区分を分けたりしてもよいのではないか。ただ箇条書きで並んでいるものより、グループングさせて、その中から自分が取り組みやすいものを選んで取り組み始めてもらえるような構成にしてもよいのではないか。
事務局	構成について検討する。

大庭委員	第7章の2050年ゼロカーボンシティの実現に向けての本市の目指す将来像について、防災分野の取組が現在行っていることと変わっていない。この内容だと防災面に力を入れていないように感じる。もっと新しい対策等何か具体的なものは記載しないのか。
事務局	防災部局と協議し、記載できる内容を検討する。
鈴木会長	クリーニングシェルターの設置も防災や健康の適応策にあたるので、記載できないか。2項目が、概念的で具体像が見えてこない。数値化するなど見せ方に工夫をしてもよいのでは。
事務局	検討する。
栗田委員	気候変動への適応策の自然生態系の適応策について3個目の策でアカウミガメのみの保全を記載しているが、数年産卵に来ていないウミガメをどう保全していくのか。別の天然記念物の生き物である方が、具体的に取組ができるのではないか。
事務局	生き物の保全の表記について検討する。
村上委員	市民からの要望で、西郷川に生息している小魚などの希少生物をイオンモールに飼育展示している。市民としても地域固有の生き物の保全に対しての意識が高い。生き物の保全も生息する環境など環境問題全体に繋がってくると思う。ABINC認証などとも関連付けて生物面からも環境問題の入り口にできたらより市民に周知できると思う。
藤井委員	市は電動車を公用車や市内巡回バスとして導入しないのか。市内巡回バスを電動車に切り替えて、車体にゼロカーボンシティのロゴや脱炭素、ウミガメ等について広報を載せたら大きな宣伝になるのではないか。自分自身も審議会に属する前までは、福津市のゼロカーボンシティ宣言について知らなかった。家族や周りの友人に聞いても知っている人が少ない。もっと周知することが大事なのではないか。
事務局	公用車等については管理部局と協議していく。周知については課題があると感じているが、市内を走る公用車を活用するのはとても効果的であると思う。
早渕委員	2050年のゼロカーボンシティの暮らしのイメージを掲載しているが、第9章気候変動への適応に向けての市民による

行動チェックリストを関連付けた方がよいのではないか。そもそも本計画書を閲覧する市民も少ないと思われる。本計画書を簡略化した資料を、イベントや様々な媒体などで周知する時に、イメージ像と行動リストの内容を共有しておけば、何の行動を起こせばどうなるのかがイメージがしやすく促しやすくなるのではないか。

有田委員 本計画を策定した後、周知する必要があると思う。そのためのパンフレット等を配る予定はあるのか。

事務局 概要をまとめたものは作成予定であるが、パンフレットとして配布する予定はない。概要版をHPなどの媒体で公開する他、イベントなど市民の目の触れる場で情報提供していくことを検討する。

有田委員 パンフレットの作成・配布が厳しいのであれば、広報誌への折り込みなどを活用して市民への啓発に努めてほしい。

鈴木会長 他の市町村でも、計画策定後、HPに掲載するのみで、周知できていないことが多い。広報誌等いろいろ活用してほしい。また、再確認になるが、福津市地球温暖化対策実行計画としては、既に事務事業編である第5次福津市エコオフィスプランが策定されており、その中で個別の具体的な市の取組を掲載している。今回の福津市地球温暖化対策実行計画は、区域施策編なので、市民や市内の事業者に向けた、より一般性を持たせた市全体としての地球温暖化対策を示している計画であるという認識で間違いないか。

事務局 間違いない。

○事務局より今後のスケジュールについて説明

○閉会宣言